
Unhappy Halloween!

Allegro

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Unhappy Halloween!

【Nコード】

N14460

【作者名】

Allegrò

【あらすじ】

僕、星河スバルは仮装させられてスピカモールに行く羽目に…

(前書き)

あー、久しぶりです。A l l e g r oです。学園祭とか学園祭とか学園祭とかテストとかあったので、投稿はズズズと止めてました。

短編書いてみました。
スバル視点です。

午前9時半…僕は、布団の中。

母さんは僕を起こさずにどこかへ買い物に行っちゃったし、目覚まし時計のウォーロックも今は寝ているみたいだ。

今日は日曜日。たまにはこんな寝坊もいい。

ピンポーン！ピンポンピンポンピンポンピンポーン！

…誰だろう。何もベルを連打しなくても。

「はーい…」

寝ぼけてパジャマのまま、僕は玄関のドアを開けた。

「トリック・オア・トリート！」

…え？

長いローブに三角帽子に箒…魔女？

それになんともミスマツチな紙袋。

「スバル君、おっはようございます！」

魔女は超ハイテンションだった。よく見ると、魔女はミソラちゃん
の仮装だった。

…ミソラちゃん！？

ああそうか、今日は10月31日だ。
でも、ハロウインの家まわりって、普通夜やるんじゃないっけ？

「こんな朝から何しに来たの…？」

「スバル君、今日暇だね？」

そうだけど。

ミソラちゃんは僕の答えを聞かずに続ける。

「スピカモール、一緒に行こっか！」

一緒にいいいいいいいい！！？

これって、デートってもののなの！？

ミソラちゃんは紙袋を僕に渡す。

「これに、着替えてくれる？」

紙袋の中身は、ローブ、杖、それに…三角帽子。
あきらかに、魔法使いの仮装だ。

「何で！？」

「いいからいいから。私はここでまってるから、すぐ着替えてきてね。」

ミソラちゃんは僕をドアの中に押し込んだ。

はあ…

場所は変わって、スピカモール。

魔法使いの仮装を無理やりさせられた僕は、電波変換させられて（仮装でウェーブライナーに乗るわけにはいかないからだ）スピカモールまでミソラちゃんに引っ張られてきた。

ちなみにツンツン頭は帽子の中に押し込まれている。

スピカモールに来て初めて、僕が仮装させられている理由が分かった。

スピカモールの中に、チラシがはってあったのだ。

「10月31日、仮装している方は各ショップで優待が受けられます！」

で、今は。

「スバル君、これとこれどっちがいい？」

ミソラちゃんは2枚のTシャツを交互に自分に合わせ、僕のほうを見ている。

僕の両手には：紙袋がたくさんぶら下がっている。

「どっちがいい？」って聞かれたのも、もう10回目。

全く、女の子の買い物に付き合わされるところなことが無い。

「どっちもかわいいから、もう両方買っちゃえば？」

「えー、だって最近クローゼットが大変なことになってるし…」

結局、ミソラちゃんは右のTシャツを選んだ。
10%オフ。仮装の優待らしい。

ミソラちゃんは、かぼちゃプリンをばくついている。
15個目。前にはプリンカップが積み上がっている。ミソラちゃん
の胃袋の中には、シリウスのブラックホールでも入っているんじゃないだろうか。

「ごちそうさまでしたー！」

レジで会計を済ませ（僕の奢り…）、店を出ようとしたとき、クツ
キーを店員さんにもらった。仮装優待キャンペーンだ。

「スバル君、このお店入ってみようよ。」

僕に許可を求めているが、許可を聞かずに入る。
まあ、なんというか…

ミソラちゃんが入ったお店は、お菓子屋さん。ハロウィンのお菓子
コーナーでミソラちゃんは立ち止まってしまったので、店の中をぐ
るっと見回す。

…まずい。

黄色いドリル。

眼鏡のちっちゃい子。

凶体のでかいやつ。

間違いない。委員長たちだ。仮装はしていない。

「あれ、スバル君じゃない？」

気付かれたーーーーー！

しかもこっちに来る！

隣に何も知らないミソラちゃんがいる。逃げられない…！

「スバル君、こんなところで何してるの？そんな魔法使いみたいな格好で。」

委員長は隣に目をやった。顔がみるみる赤くなる。

「この子と一緒に…！！？」

世界の終わりは、ここから始まった…

委員長とミソラちゃんが、まだけんか続けている。

「スバル、大丈夫か？」

「ここは早く逃げないとまずいですよ…」

そうゴン太とキザマロに言われ、そっと店を出る。前のベンチに座って、1つため息がでた。

「はぁ…」

どうしよう…

店を覗く。

あれ？けんかが終わっている。
しかも意気投合している。

笑顔で店を出てきた2人。

「今日、うちでハロウィンパーティーやるから、スバル君も来なさいよ！」

誘いという名の命令を出して、委員長はゴン太とキザマロを連れてスピカモールを出ていった。

「なんか楽しそうだから私も行く。あとでねー！」

いつの間にか電波変換してハープ・ノートになったミソラちゃんは、どこかへ行ってしまった。

さあ、僕も帰ろう。

あ。

ミソラちゃんの買った服は、僕の手元に残ったまま…
後で渡さなきゃ。

魔法使いの衣装も返さないで。

今夜はハッピーなハロウィンになりそうだ。

(後書き)

「おい作者！なんで俺たちウィザードの存在が無いんだよ！」

ウォーロック、君なら最初のほうにいるじゃん。

「俺が叩いたら音が止まるみたいに書いてあるじゃねーか！」

だっていないんだもん。

ちなみに昨日は私の誕生日でした。

15になります。

「おい！俺たちをだしやがれ〜〜〜〜〜！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1446o/>

Unhappy Halloween!

2010年10月31日05時23分発行